

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ルサカ州チパパ周辺地域において、地域ぐるみで HIV 感染拡大を抑制し、必要なケア・サポート体制を確立する。
(2) 事業の必要性(背景)	<p>(イ) ザンビア国概要</p> <p>ザンビア共和国の HIV 陽性者は約 98 万人(2010 年国連合同エイズ計画統計)に上り、成人の約 13.5%に達している。国民の平均寿命は 46 歳(2010 年国連人口基金統計)で、働き盛りの年齢層の減少が著しい。またエイズ遺児も約 69 万人に上る等、エイズが社会生活に及ぼす影響は深刻である。1992 年以降、ザンビア政府は HIV/エイズ対策を強化し、2005 年に「国家保健戦略計画(National Health Strategic Plan: NHSP) 2006-2010」を策定した。しかしその政策が十分に実践されているとはいえず、HIV/エイズ対策には市民団体による草の根レベルの活動が不可欠である。また、2005 年に抗レトロウイルス薬(Anti-retroviral: ARV)の無料供給が開始されたが、適切な ARV 服用への支援体制は整っていない。そのため、不適切な ARV 服用を続けることにより、薬の効力が減少する薬剤耐性が広がることが懸念される等、治療薬による対処にはまだ問題も多く、服薬に配慮した対策が急務である。</p> <p>(ロ) 事業地概要</p> <p>本事業の対象であるルサカ州チパパ地域は、一昨年当会がフェーズ 1 の活動を開始するまでは、包括的な HIV/エイズ対策が不十分な地域であった。また、対策活動を取り纏めるべき行政機関がほとんど機能しておらず、予防啓発活動もクリニックを訪問する人を対象に情報提供やコンドームの配布をするのみで、住民へ積極的にアプローチしていく取り組みが欠けていた。</p> <p>(ハ) 事業地における活動(フェーズ 1 およびフェーズ 2)</p> <p>2009 年 10 月、HIV/エイズが社会生活に与える影響を軽減することを目的に、NGO 連携無償資金協力の助成を受け、「ザンビア共和国ルサカ州チパパ周辺地域における HIV/エイズ対策事業(フェーズ 1)」を開始した。2012 年までの 3 年間で、①予防・啓発、②HIV 抗体検査・カウンセリング(VCT)施設の整備、③ケア・サポート、④適切な ARV 服用を含む治療、を包括的に実施することを予定している。フェーズ 1 で、活動の核となる住民グループを選び、予防・啓発活動等のための研修を積み重ねたところ、住民グループ自らが活動の計画を立てるようになった。続いて 2010 年 10 月に開始した現行のフェーズ 2 では、各グループが自ら策定した計画に基づいて活動を実施し、モニタリング・評価、次の計画策定、という活動実施サイ</p>

	<p>クルを身につけると同時に、活発な啓発活動と、効果的なケア・支援活動が行われるよう支援している。また、住民から要望が出ていた VCT 及び HIV/エイズ情報センター施設の建設について、住民グループ、クリニックやカフエ郡保健局と運営管理体制を協議している。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>(イ) VCT センターの建設</p> <p>住民の行動変容を促進するためには、住民にとって利用しやすい検査環境の整備が不可欠である。そのため、受検者のプライバシーに配慮した VCT センターをチパパクリニック敷地内に建設する。さらに、VCT センターに HIV/エイズ情報センターを併設し、HIV/エイズ理解促進のための資料を展示し、カウンセリングを実施することで、チパパクリニックを地域の HIV/エイズ対策のハブ施設とする。</p> <p>(ロ) 住民グループによる持続的な HIV/エイズ対策活動支援（トレーニング、ワークショップ、会議等の開催）</p> <p>各住民グループ（11 グループ、計約 240 名）による啓発・ケア支援活動がより活性化するのに加えて、グループ活動が 3 年間のプログラム終了後も持続できる体制づくりに努める。</p> <p>1. 各住民グループが活動を効果的に実施するための知識や技術を習得するワークショップの開催</p> <p>1.1 グループメンバーを対象に、HIV/エイズを含む性感染症や服薬に関する知識、基礎看護技術、カウンセリング、人前で話すための技術等に関するワークショップを各グループ 1-2 回程度、計約 22 回実施する。</p> <p>2. 各グループによる住民向け啓発及びケア・サポート活動の実施</p> <p>2.1 複数のグループが合同で、HIV 感染予防、ARV 薬剤耐性対策、HIV/エイズ理解促進等を目的としたキャンペーン活動を年 8 回程度実施する。</p> <p>2.2 エイズ対策クラブや若者グループが、学校やコミュニティにおいて啓発活動を実施する。具体的には、6 年生以上の学生に対する学内啓発セミナー、地域の若者を対象にしたワークショップや意見交換会、寸劇を通じた啓発等を年間 70 回以上実施する。</p> <p>2.3 VCT センター内に併設する HIV/エイズ情報センターにおいて、クリニック職員が若者グループ等と協力の下、資料の展示やカウンセリング・相談業務を実施する。</p> <p>2.4 家庭訪問看護（Home Based Care : HBC）実施者や HIV 陽性者グループメンバーが、地域の陽性者に対して、グループ会議やセミナー、家庭訪問を通じて、服薬支援を含む社会的・心理的な支援を行う。また、HIV 陽性者や病人の照会・搬送システムの運用とそのモニタリングを実施する。</p> <p>3. 住民グループが活動を持続するための運営管理能力の強化</p> <p>3.1 各住民グループ活動の進捗につき、定例会等を通じてモニタリ</p>

	<p>ングを実施する。また、年1-2回、活動評価及び再計画立案ワークショップを行うことで、活動実施サイクルの定着化を図る。</p> <p>3.2 住民グループが自ら活動を運営し、資金を調達したり後進を育成する能力を身につけるよう、グループマネジメント、所得創出活動や資金申請書作成のスキルを磨くワークショップを各グループ年間1-2回実施する。また、政府、国連機関、他 NGO 等から各種情報を収集するための支援も行う。</p> <p>3.3 地域内外のグループとの交流を通じて、経験の共有や各活動の効率化を図る。</p> <p>(ハ) 主な投入 (詳細は別添資料 1-a 参照) VCT 施設建設とそれに伴う機材費、啓発活動実施に必要な教材等の備品、資料作成費や参加者旅費等ワークショップ開催関連費等</p>
(4) 持続発展性	<p>2009 年に開始した当事業は実施当初から、①地域で活動している住民グループを育成し、その自立を図る、②それらの住民グループと地域に存在する政府組織との連携を高める等、自立発展性を高めることに重点を置いて活動内容を組み立てている。事業終了後は、核となる住民グループ自らが3年間で培った知識と能力を活用し、地域コミュニティでの啓発、支援活動を持続していく。チパパクリニック敷地内に建設する VCT センター、及び HIV/エイズ情報センターは、カフエ郡が管理・運営する。</p>
(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>(イ) 成果：VCT センターを立ち上げることにより、検査環境及び検査効率が改善される。 指標：2010 年平均の約 3 倍にあたる、月 140 名程度の住民が HIV 抗体検査を受検する。</p> <p>(ロ) 成果①：チパパ地域の住民及び学生の HIV/エイズに関する知識レベルが向上し、行動変容が確認される。 指標：①-1：住民グループが、計 1800 人以上の住民及び学生に対し、啓発活動を実施する。 ①-2：感染経路等に関する知識の向上、HIV 陽性者に対する差別及び偏見の是正及びコンドームの使用等の行動変容が 2012 年 11 月実施予定の終了時評価 (インタビュー調査) により確認される。 成果②：HIV 陽性者及びその家族に対するケア・支援活動提供の仕組みが確立し、サービスの質が向上する。 指標：②-1：ARV 服薬にかかる問題の報告が減少する。 ②-2：フェーズ 2 までに当会が寄贈した 20 台の救急車カートの 9 割以上が稼働し、容態の悪化した HIV 陽性者、妊産婦、域内の病人が迅速に搬送される。</p>

	<p>成果③住民グループに活動の実施サイクル（立案・運営/モニタリング・評価・フィードバック）が定着し、各グループが、事業終了後に自立して活動を継続するために必要な組織運営力や資金調達力を身につける。</p> <p>指標：各グループが活動計画、意思決定システム、資金管理システム、資金獲得戦略を持つ。学校以外の5つの住民グループにつき、全てのグループが資金調達活動を行う。</p> <p>なお、本事業（計3年間）終了時の裨益者数見込みは以下の通り。</p> <p>フェーズ1 直接裨益者数のべ841人、間接裨益者数2,645人</p> <p>フェーズ2 直接裨益者数のべ550人、間接裨益者数4,700人（見込み）</p> <p>フェーズ3 直接1,017人、間接10,690人（見込み）</p> <p>フェーズ1～3の合計 直接2,408人、間接18,035人</p>
--	---